

## 令和5年度

### 劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

#### (地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

### 成果報告書

団 体 名	公益財団法人かすがい市民文化財団	
施 設 名	春日井市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内 定 額 ( 総 額 )	529	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	529 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

# 1. 事業概要

## (2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	若手音楽家支援事業	4月～2024年3月	【3期】Jumble Quartet、FUN、Trio Enchant 【4期】Trio Bianca、Lupinus	目標値	20名
		市内各種施設、交流アトリウム、ギャラリー等		実績値	16名 ※鑑賞者 3,889名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当財団では6つのミッションのひとつに、「人材育成 -はぐくむ-」を掲げており、芸術家やアートマネジャーなど、将来この地域の芸術を担う人材を育てるため、教育機関や文化施設と連携・協力し、長期的視点に立った専門的人材の養成や職員の資質向上に努めている。

本事業は、公募によって選ばれた若手音楽家グループが3年間の活動期間の中で財団の自主事業や外部からの演奏依頼を通じて経験を積み、様々な場と聴衆に対して演奏やトークを含めた最善のパフォーマンスが発揮できるよう、育成支援することを目的とする。従来は「アーティストが主催公演（自主公演）を開催するノウハウを身に着ける」ことを具体的な目標として設定していたが、今年度からはより大きな視野に立ち、3年間の活動期間内に自身の演奏者としての力量を向上させるとともに、春日井市内の様々な人々との交流を通じて支援者・ファンを獲得し、市民に親しまれる“まちの音楽家”となることを目指す。

令和5年度の「若手音楽家支援事業」では、今年度で活動を終える第3期登録アーティスト（3組10名）と、活動2年目に入った同第4期（2組6名）が活動した。①「かすがい どこでもアート・ドア（アウトリーチ事業）」、②「おいでよ アート・ドア（インリーチ事業）」、③「親子のためのはじめての音楽会」の3事業で当該アーティストの出演機会を設け、これらを通じて社会とつながりを持って活動する演奏家としてのスキルとキャリアの向上を図った。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

地域の教育・福祉施設に訪問してコンサートを行う「かすがいどこでも アート・ドア（アウトリーチ事業）」では、文化的、社会的な地域とアーティストの関係性の構築を重視した事業企画を随所に織り込んでいる。具体的には、春日井市出身のアーティストが自らの母校で演奏する機会を学校側に提案するなどし、市民がアーティストをより身近に感じられる環境整備を図っている。

文化フォーラム春日井・交流アトリウムで開催した「親子のためのはじめての音楽会」については、第4期の2組（9/15:Trio Bianca、3/15:Lupinus）が出演した。同日2回公演、1回あたり30分の内容に対して、9月は374名、3月は518名と回を重ねる毎に来場者が増加した。0歳から本格的な演奏が聴けるという公演のニーズの高さに加え、保育園でのアウトリーチ演奏で場数を踏んだアーティストの安定したパフォーマンスが好評を博している。またこの公演は子供のみならず、（社会の中で孤立しやすい）子育て中の親たちが、文化施設に足を運び自分と似た状況の人々と出会う機会を提供するという、社会的な意義も達成されている。

文化フォーラム春日井・ギャラリーで開催した「おいでよ アート・ドア（インリーチ・コンサート）」は、本来音楽演奏用ではない空間でありながら、可動壁を移動させて良好な音響と客席とステージの距離の近さを両立させる施設の隠れた特性を活かした企画である。登録アーティストとして活動した3年間の成果披露に相応しい質の高いコンサートを目指しており、優れた文化を春日井から発信する意義をもって続けられている。

全体として地域密着型・地産地消型のアーティストを養成することで、アーティストが地域社会を活性化し、また地域社会が地元アーティストを応援する好ましい循環を創り出す。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

第3期、および第4期登録アーティスト（5組16名）の令和5年度の活動実績は次の通り

- アウトリーチ派遣（どこでもアート・ドア）＝21回／鑑賞者 2704名
- 親子のためのはじめての音楽会＝2回／来場者数 892名
- インリーチ・コンサート（おいでよアート・ドア）＝2回／来場者数 143名
- アウトリーチ研修会＝1回（幼児向けアウトリーチ・プログラムを創る実践型ワークショップ）
- 演奏依頼に対する紹介派遣＝3回（市内高齢者団体、小学校創立周年記念式典、公民館イベント）

市内の学校、保育園、福祉施設等に出向いて生演奏を届けるアウトリーチ事業「どこでもアート・ドア」では、登録アーティスト全員が年度内に4回以上の派遣を経験し、合計2700名を超える鑑賞者の前で演奏することができた。また、これに付随してイベントにアーティストを派遣してほしいという相談も3件あり、「地元のアーティストに出番を」という考えに賛同する人が増えてきたことの表れと考える。特に市内公民館主催の「ふれあいコンサート」は初の試みで合ったが好評を博したため、毎年恒例のイベントとして今後も継続開催される見込みとなった。



「親子のためのはじめての音楽会」では、この企画に初出演の2団体（第4期登録アーティスト）に、これまで出演した団体（同第3期）から2名がそれぞれ賛助出演した。先行してより多くの現場経験を積んでいる第3期登録アーティストが、後輩にあたる第4期と共演することによって、アーティスト同士の育成を図るとともに、普段共演しない組み合わせで同じ舞台上がることによる演奏と企画性の向上を目指した。結果的にどちらの公演も連続で過去最多を更新する来場者に恵まれたと同時に、アンケートからは演奏内容に対する好意的な意見が多数を占めた。

「インリーチ・コンサート」では、今期で活動を修了する第3期登録アーティストの3団体のうち2団体がそれぞれの持ち味を生かした単独コンサートを行った。アンケートでは来場者からの好意的な感想・意見がほとんどで演奏者も手ごたえを感じる仕上がりではあったが、各公演70名台という来場者数については、アウトリーチ活動をいかにインリーチ・コンサートへの集客につなげるかという課題を残した。



登録アーティストを対象とした2回の研修会では、第4期登録アーティストが幼児向けプログラムを実際に通して演奏し、それに対して第3期が内容を検証するというスタイルの実践型ワークショップとして開催した。ここでも実際に現場を経験した先輩アーティストならではの説得力に満ちたアドバイスが伝授され、アーティストの自発的な成長を促す良い機会となった。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

年間を通じて、ほぼ計画通りに「アウトリーチ」と「コンサート」が適宜バランスよく実施され、登録アーティストの継続的な支援につなげることが出来た。一方で研修会の開催回数は1回にとどまった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業予算内で適切な予算執行ができた。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

愛知県内の公共ホール・劇場が行っている「若手音楽家支援事業」に類似した事業、および付随したアウトリーチ事業では、オーケストラと契約しその演奏者たちが手分けして市内各所で演奏するもの、あるいは関東・関西から全国的にアウトリーチを行っているベテラン演奏家を招いている形態が多く、春日井のように「地元出身者・在住者」を登録アーティストとして迎え、時には本人の母校を訪問したりや住んでいる地域でアウトリーチ活動を行うなど、地域とアーティストの特性を繋げた事業展開を行っている例はそれほど多くない。これは、地元出身または在住の音楽家がそれなりに存在する春日井市の特性と同時に、そういった特性を、市の文化拠点である春日井市民会館と文化フォーラム春日井、およびそれを運営する当財団がしっかりと把握し、適切に活用できる機能を保持してこそ可能な事業といえる。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

若手音楽家支援事業登録アーティストたちは「どこでもアート・ドア」を通じて、普段コンサートに足を運ぶ機会が少ない人々に、生演奏の迫力や臨場感を届けている。すぐに結果が出る性質の事業ではないが、こうしたことを継続することで地域に「芸術文化の良き理解者」を増やす一助となることを目指している。町内会や高齢者団体等の地域団体へのアウトリーチ派遣では、住民が同じ音楽に耳を傾け、その感動を共有することで、地域のつながりを再確認し親睦の輪を生み出した。保育園や幼稚園では、子供たちの情操に訴えかけ、普段の園での活動では得難い、直接に好奇心をくすぐり感性を揺さぶる音楽を届けることができた。学校でも同様に、普段の授業では体験できない生の音楽体験を多数の子どもたちに届けるとともに、現場の教員の授業負担を軽減したり、普段なかなか気づかない子どもたちの意外な一面を観察したりする機会を提供した。

このように、本事業は若手音楽家たちの研鑽を第一の目的としながらも、副次的に地域の文化芸術の発展に大きく貢献する事業として考えられる。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### ①安定的な財源確保

春日井市文化振興基本条例には、当財団の責務が明文化されており、文化政策を体現する専門集団として位置づけられている。市補助金の減少もなく、近年は市から財団への事業移管による人員増や事業費増が認められ、安定的な財源が確保できている。

#### ②専門職員の配置とフォローアップ

アウトリーチ・プログラムやコンサートの企画構成をアーティストと対等の立場で意見交換できる職員の存在が、本事業の成功には不可欠な要素である。そのため文化財団では音楽事業に特化したプロデューサー職を今年度新たに設け、より綿密なリハーサルや打ち合わせを行うなどアーティストと伴走しながら、より良いアウトリーチやコンサートの企画制作に努めている。また、登録アーティストが出演したアウトリーチやコンサートは全て動画に記録され、財団職員や他の登録アーティストと共有し、適宜振り返りが出来るよう工夫している。

#### ③新人職員の育成

スタッフの異動によって登録アーティストの育成支援が途絶えぬよう、担当外の職員も適宜アウトリーチやコンサートの現場に立ち会い、本事業の目的や目標達成のための手法を共有できるよう努めている。音楽を専門的に学んでいないホール・劇場職員の場合、ともするとアーティストに演奏内容を任せきりにしてしまいがちだが、当財団では特に新人職員に対して出来る限り様々な公演の現場に立ち会う機会を設け、「良い公演」を創るために必要なスキルの習得につなげている。また他のホール・劇場の若手音楽家育成やアウトリーチに関わる事業を積極的に視察し「見る目」を養うよう促している。